2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	緩和ケア・がん看護実践論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対象学年	2学年		学期及び曜時限	後期	教室名	新館2階3階
担当教員	北田 なみ紀 先生 2時間 山口 和佳子 先生 10時間 中辻 友華 教員 8時間	実務経験とその関連資格	がん看護専門看護師 緩和ケアセンター副主幹 がん性疼痛看護認定看護師 病院勤務 成人看護臨床経験、教員			

《科目目標》

終末期にある対象の全人的苦痛を緩和するための援助を考え、模擬実践できる。

《成績評価の方法と基準》

【評価方法】授業・討論参加状況(20%)、アセスメント(30%)、グループ発表内容(50%)
【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満

《使用教材(教科書)及び参考図書》

ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア 宮下 光令編、株式会社メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護② 栄養代謝機能障害、明石惠子 編、株式会社メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 安酸 史子・鈴木 純恵 ・吉田 澄恵著 株式会社メディカ出版

《授業外における学習方法》

配布した事例については、病態や治療看護に至るまで事前学習をして、看護計画とともに事前学習として提出する

《履修に当たっての留意点》

事例に関して日常生活の援助、コミュニケーション、疼痛緩和への援所などの看護援助が提案できるように、これまでの基礎看護技術・解剖生理学・病態生理学などの知識を駆使したシミュレーション学習を目指す

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	がん患者の心理・社会的苦痛	講義資料 教科書	大腸がん患者について病態・治療・検査・看護についてまとめる
		各コマにおける授業予定	大腸がん患者の事例紹介 全人的苦痛と緩和ケア がん診断時の心理・社会的苦痛を考える		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	診断・告知時の患者のアセスメント	講義資料 教科書	事例の対象に対しての情報を整理
		各コマにおける授業予定	事例の診断・告知時の情報を整理しアセスメント、関連図を作成する		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	抗がん治療の効果がなくなり、患者の苦痛が増強した時のアセスメントと看護計画(グループワーク)	講義資料 教科書 実習記録用紙	
		各コマにおける授業予定	事例の全人的苦痛をアセスメント、関連図を作成し、苦痛緩和とQOLを考え、看護計画を立案する(グループワーク)		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	抗がん治療の効果がなくなり、患者の苦痛が増強した時のアセスメントとがん性疼痛の看護計画(グループワーク)	講義資料 教科書 実習記録用紙	
		各コマにおける授業予定	がん性疼痛の緩和と日常生活への影響への対処、QOLを考え、看護計画を立案する(グループワーク)		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	がん終末期のケア(グループワーク)	講義資料 教科書 実習記録用紙	
		各コマにおける授業予定	終末期の症状の変化、臨死期の特徴的な症状について関連図から看護上の問題を明らかにし、全人的苦痛のケアを考え、看護計画を立案する(グループワーク)		
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画をもとに痛みのケアの演習を行う(グループワーク)	講義資料 教科書 実習記録用紙	関連図と看護計画までの記録全てを完成
		各コマにおける授業予定	看護計画を立案し、薬物ケア・非薬物ケア・家族支援をシミュレーション学習		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画をもとに痛みのケアの発表準備を行う(グループワーク)	講義資料 教科書 実習記録用紙	
		各コマにおける授業予定	看護計画に基づく薬物ケア・非薬物ケア・家族支援のシミュレーション発表準備		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	看護計画をもとに痛みのケアを発表し、振り返り(グループワーク)	講義資料 教科書 GW	発表準備
		各コマにおける授業予定	シミュレーション学習をグループで発表する 患者の全人的苦痛の緩和について振り返りを行う		